

平成22年度 和歌山県文化奨励賞

うち やま
内 山 りゆう (本名 内山 隆)

住 所：和歌山県西牟婁郡白浜町

出 身 地：東京都新宿区

生 年：昭和37年

環境問題がクローズアップされる中で、水生生物とそれを取り巻く環境全体に目を向け、作品づくりに取り組むその活動は、常に注目されており、平成23年も東京において大規模な個展が予定されるなど、その活躍が大いに期待されている。

◎業績及び経歴

昭和37年東京都に生まれる。東海大学海洋学部水産学科を卒業後、写真家桜井淳史氏に師事。その後、独立し生物写真家の道を歩み始める。

氏は、当初から淡水魚をはじめ両生・爬虫類、水生昆虫類など淡水に棲む生き物にこだわり、図鑑や写真集などに精力的に作品を発表してきた。

重い機材を背負って、深い山に分け入り、流れる水の中で一瞬のシャッターチャンスを待ちながらの長時間にわたる撮影は、体力の限界との戦いであるが、その結果、生み出される作品は、生物の表情、質感からそれを取り巻く水環境まで見事に捉え、常に高い評価を受けている。特に「大山椒魚」や「アユ 日本の美しい魚」等をテーマにした写真集は、国内のみならず世界的にみても例がなく、その完成度の高さが絶賛され、代表作にもあげられている。

国内外において撮影を行う中で、生物だけでなく、広く水辺の環境にも関心を持つようになり、撮影で度々訪れた本県の美しい水環境に魅了され、平成11年に住居を東京から白浜町に移した。以来、和歌山を拠点にしながら多くの作品を撮影し、出版物やテレビ番組を通して、本県の自然の豊かさを全国に向けて発信している。

最近では、平成21年に東京にて「両生類・爬虫類美術博覧会」、平成22年には岐阜県にて「水辺の時間」と題した個展を開催、また平成21年に出版した写真絵本「たんぼのカエルのだいへんしん」は日本絵本賞の候補にノミネートされるなど、その活動はますます広がりを見せている。

■現在

ネイチャー・フォトグラファー